

認定特定非営利活動法人

だいじょうぶ

2022 年度 事業報告

(2023 年 第 18 回総会資料)

日時：2023 年 5 月 28 日（日）

13：30～15：30

場所：子どもと親の相談室

総 会 次 第

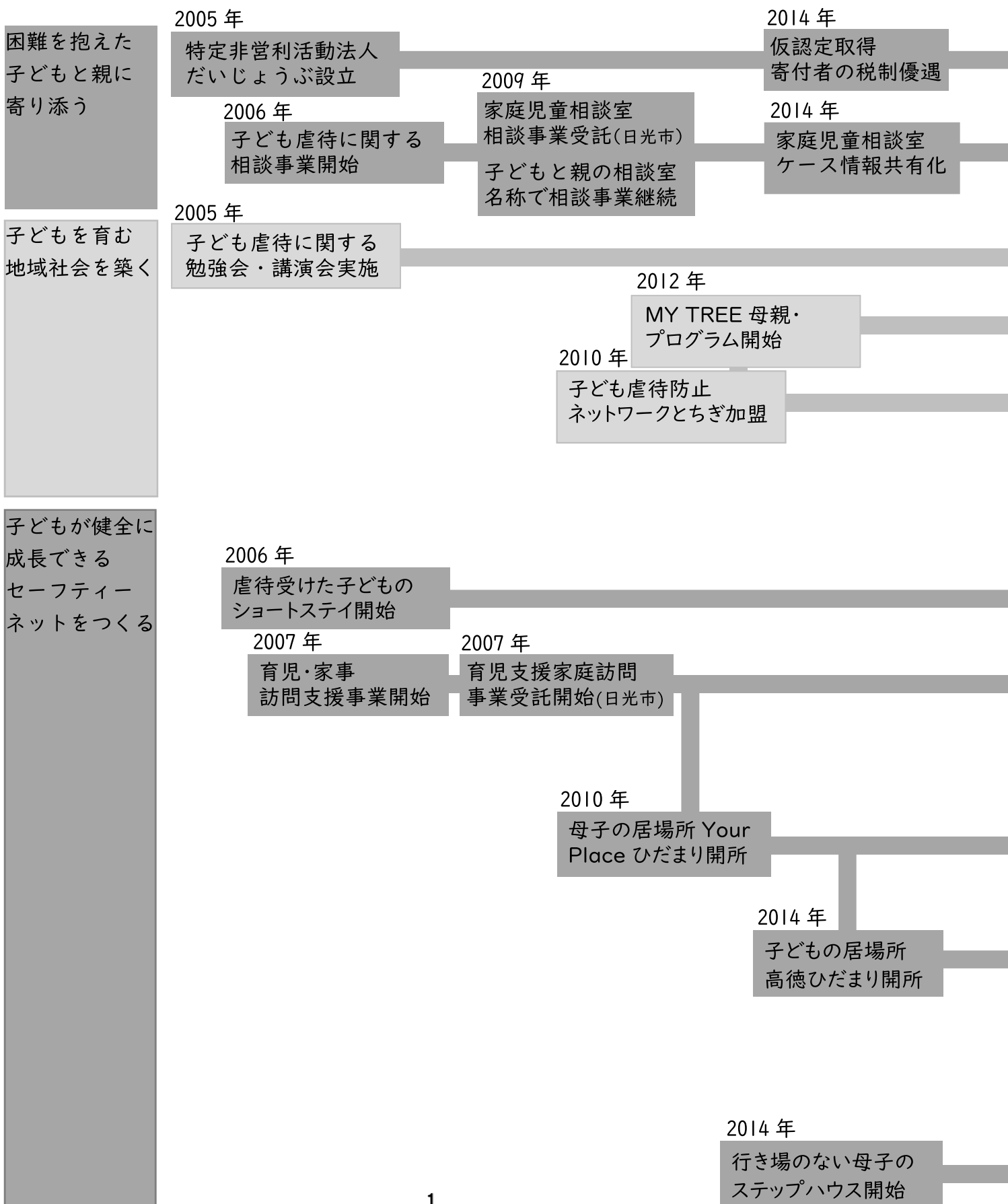
- 1、開 会
- 2、理事長あいさつ
- 3、議長選出
- 4、定足数の確認
- 5、書記及び議事録署名人の選出
- 6、審議事項

第 1 号議案	2022 年度事業報告について	P. 3～17
第 2 号議案	2022 年度決算報告及び監査報告について	P.18～23
第 3 号議案	2023 年度事業計画書（案）について	P.24～28
第 4 号議案	2023 年度予算書（案）について	P.29～31
第 5 号議案	役員改選について	P.32
第 6 号議案	役員給与の上限について	P.32

- 7、議長解任
- 8、その他
- 9、閉会

一人でも多くの子どもが「生まれてきてよかった！」と実感できる地域をつくります。

特定非営利活動法人だいじょうぶは、虐待や貧困、親の病気など様々な理由で家で安心して暮らすことのできない子どもたちとその家族に寄り添い、支えています。すべての子どもたちが生まれや環境に左右されずに他者との関りの中で成長できるよう、出会う子どもたちのニーズに



合わせて活動を生み出してきました。現在では、日光市との協働で取り組む相談事業を中心に、それぞれのケースに合わせて様々な支援を組み合わせ提供しています。

2016 年

認定取得
寄付者の税制優遇

2021 年

認定更新
寄付者の税制優遇

2016 年

子育て応援セミナー
実施

2022 年

MY TREE・父親
プログラム開始

2017 年

地域協働プロジェクト
日光子ども応援隊発足

2021 年

栃木フォスティング（里親）
センター研修実施

2016 年

認可外保育施設
ひだまりキッズ開所

2017 年

子どもの居場所 Your
Place ひだまり移転

2019 年

高校生の居場所
のんびりカフェ開始

2021 年

自然体験型子どもの
居場所キリフリ開所

2023 年

子ども第三の居場所
あそびのにわ開所

全体の報告

新型コロナウイルス、物価高の影響

新型コロナウイルス感染症は、政府の感染症 5 類への指定変更方針により、世間の警戒度がだいぶ緩んできている印象です。ですが、安価な特效薬はまだありませんし、地方の医療体制は脆弱で、高齢者や持病がある方にとって感染時のリスクは依然高いままです。感染時のリスクが低い子どもたちにとって、マスクの着用が任意になって、表情が見える場面が増えたことは良かったと思います。さらに他者との接触への制限も緩み、他者とのふれあいの機会やレジャー等の体験の機会が回復することを期待しています。

一方で、感染流行の長期化や物価高による、家庭への経済的な影響が大きくなっていると感じます。経済的な不安がある子育て世帯を、食事の面から支えるべく、毎月の食材配布を続けてきました。子どもの食を支える活動に共感が広がり、お米や農産物等、団体への物資提供を申し出てくださるかたも増えています。少しずつですが、支え合いの循環が生まれています。

子どもの居場所の出口戦略

子どもの居場所を利用する子たちが居場所を卒業する場合の多くは、心配なくなったから卒業するのではなく、中学校に入って部活に入ったり、高校生になって平日夕方の利用が難しくなるなどの理由で卒業する子がほとんどです。卒業生とつながるために、毎週土曜日に高校生の居場所「のんびりカフェ」を実施してきました。この間、高校を卒業しても就労に失敗したりしてカフェに戻ってくる子たちを何人か見えました。高校時代のもっと手厚い関わりの必要性や、就労後のフォロー等、自立に向けた子どもの居場所の出口戦略が求められている、そう感じています。

日本財団「子ども第三の居場所」助成で「あそびのにわ」開所

日本財団が実施する、「子どもたちの生き抜く力」を育むことで「みんながみんなの子どもを育てる社会」を目指す、「子ども第三の居場所」助成に応募し、採択されました。そこで、子どもの居場所キリフリ敷地内に、子ども第三の居場所「あそびのにわ」を開設しました。交流スペースの新築と送迎用のワゴン車も購入することができました。

生活困窮世帯の子を主対象として、平日毎日開所し、居場所の提供や学習支援、生活習慣の形成支援を行う場所です。夕食も毎日出しています。特に、豊かな自然環境を生かした自然体験学習を売りにしています。

日光市の協働モデルをアピールし、全国に！

子どもの居場所が県内に広がりました。そして 2020 年、子どもの居場所に充当可能な国の予算ができたことで、子どもの居場所が全国に広がる可能性が生まれています。県内の居場所との情報交換の中から、子どもたちの支援を行うにあたり、市の家庭児童相談室との連携（子どもの家庭状況、支援方針の把握）が課題とよく耳にします。市と NPO とが協働により運営する家庭児童相談室の存在は、全国的にもまだ珍しいようです。過去 10 数年の試行錯誤を経ながら、家庭児童相談室のだじょうぶとの協働運営を決断した日光市に感謝すると同時に、家庭児童相談室の協働を、先進事例として広く社会にアピールしていく必要性を感じています。

「日光市家庭児童相談室」※日光市と協働

「子どもと親の相談室」※だいたいぶ独自の相談室

事業内容

虐待や貧困、親の病気など、様々な理由で家で安心して過ごせない子どもとその家族に寄り添って、家庭環境を把握し、必要な支援を組み立てる司令塔を担っています。

日光市の家庭児童相談室に、だいたいぶからアドバイザー１人と相談員２人が加わり、市と協働で相談対応にあたっています。また、年齢等の理由で市の家庭児童相談室の対象外となるケースなどに対応する独自の相談室「子どもと親の相談室」も運営しています。両方が同じ建物内にあるため、情報の共有、支援依頼、支援内容の調整・報告がスムーズにできています。

ケース情報が完全共有化され、対等に援助方針を話し合い、具体的な支援につなげられる、行政とNPOの協働のモデルになるような事例だと自負しています。

事業報告

<家庭児童相談室>

相談件数は、2021年度の17,456件から22,964件と増加しました。そのうち、新規で受理された相談件数304件のうち、児童虐待件数は2021年度の95件から115件と増加しています。その内訳は、身体的虐待33件、ネグレクト27件、心理的虐待52件、性的虐待3件となっています。

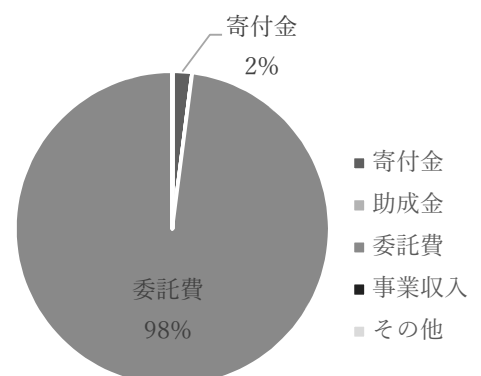
<子どもと親の相談室>

平日時間外と土日祝日の相談件数が837件から723件と減少しています。時間外の相談対応従事者が増えたため、73件の訪問相談を行うなど、細やかな対応ができています。

また、困窮した子育て家庭を対象に、食材や日用品、学用品、衣類等の提供支援を実施しました。



収入内訳



実施日時	毎日 24 時間	従事者数	7 人	事業費の金額	10,319,797
実施場所	日光市家庭児童相談室、子どもと親の相談室、従事者宅、等				
受益者数	延相談件数:22,964 件 新規受理件数:304 件 新規受理児童虐待件数 115 件				

「ショートステイ事業」

事業内容

母親の入院や出産、不適切な養育などで、子どもが家庭で過ごすことが一時的に困難になった場合や、虐待を防ぐための母親の休息のため、お子さんを数日～1週間程度お泊まりで預かり、養育する事業です。

ファミリーホーム虹の家や地域の里親さんなど、里親の資格がある、家族に保育士がいるなど、一定の要件を満たした方（場所）に登録していただき、委託しています。また、職員と一緒に泊まり込むなどして子どもの居場所で受け入れる場合もあります。

日光市からの委託だけでなく、過去には家出をした高校生のSOSを受け止め、泊まってもらったケースもあります。

事業報告

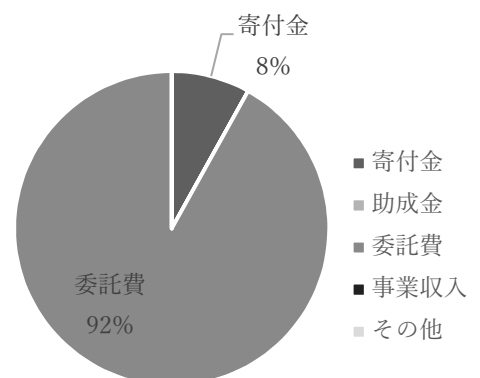
2022年度は、緊急に保護が必要なケースが減り、アパート退去から新アパート入居可能日までのずれがあったため受け入れた親子1件だけでした。ひだまりキッズを利用していた子の家族だったため、ひだまりキッズで対応、1泊していただき、送り出しました。

1/31～2/1 3人（父、母、2歳） ひだまりキッズ アパート退去から県外転居までの利用



※イメージ写真

収入内訳



実施日時	随時	従事者数	2人	事業費の金額	18,810
実施場所	ひだまりキッズ				
受益者数	日光市内の保護が必要な母子、延べ6人				

「食べて・遊んで・学んで育つ日光子ども応援隊」、「講師派遣事業」、等

事業内容

子ども虐待や子どもの貧困の課題を広く市民に伝え、子どもが大切にされる社会をつくるために、様々な事業を行っています。講師派遣や、研修会の実施、地域協働プロジェクトへの参画などです。

<子ども応援隊>

多様な主体による、子どもの貧困の課題解決に向けたプロジェクトです。地域の子どもたちが、生まれや環境によって自分を諦めることがないよう、その気になればチャレンジできる環境を整えるために、様々な事業を行っています。日光市の子どもの貧困の現状を「調べ」、「課題を見つけ」、「対策を練り」、「活動」しています。

参画主体：スマイル日光プロジェクト、S&S セミナー、NPO 法人和音、NPO 法人楽ッ子の会
ワンプレート、キリフリ自然学校、個人有志、だいじょうぶ

事業報告（※講師派遣実績は「その他」のページに記載）

<子ども応援隊>

新型コロナウイルスの影響で、飲食を伴い、不特定多数が集まるイベント「100 人鍋パーティー」は実施を取りやめています。カフェ関係は会場との調整の上、可能な範囲での実施となりました。特に、子どもカフェについては、会場の高齢者施設の新型コロナウイルス予防のため、お休みになることが多かったです。

①朝カフェ（日光東中学校にて）：月 2 回、会議室を借りて、始業前に飲食ができるカフェを実施

5/9、5/23、6/27、7/11、9/12、9/26、10/24、11/14、11/28

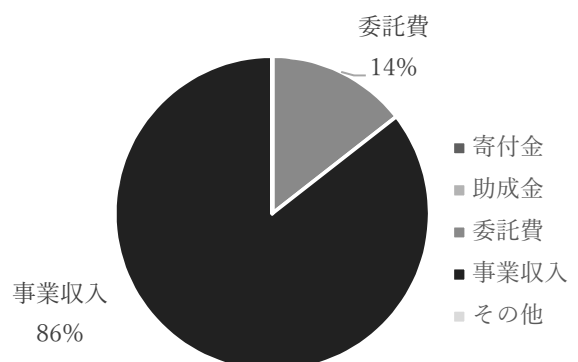
12/12、1/23、2/13、2/27、3/20 の計 14 回開催

②子どもカフェ（ひかりの里にて）：毎週木曜日、高齢者施設のコミュニティスペースで、カフェを実施



子どもカフェの様子

収入内訳



実施日時	随時	従事者数	4 人+応援隊メンバー	事業費の金額	43,514
実施場所	講師派遣：県内外各所 子ども応援隊：市内各所				
受益者数	講師派遣：全国、多数 子ども応援隊：朝カフェ約 15 人、子どもカフェ約 5 人				

とちぎフォスタリングセンター研修

事業内容

子どもの社会的養護の家庭養育推進を目的に、養育里親を増やし、今いる里親さんがよりよい里子への関わりを持てるようにと、様々な研修を実施しています。

- ・里親向け：フォスタリング・チェンジ・プログラム（FCP）、里親認定基礎・登録前研修、里親更新研修等
- ・里親支援者向け：フォスタリングパートナー（FP）研修

※栃木県が設置した「とちぎフォスタリングセンター（TFC）」を運営する、一般社団法人とちぎ家庭養育推進協議会から同センターの研修事業の一部を受託し、実施しています。

※：フォスタリング・チェンジ・プログラム（FCP）：1999年イギリスで開発されたプログラム。子どもの長所に焦点を当て、子どもを育て、認めるための実践的なスキルを学び、家庭で実践するプログラム。

※フォスタリングパートナー（FP）：県内児童養護施設に配置されている里親支援専門相談員と、児童相談所から推薦いただいた里親・元施設職員等が構成メンバーです。

事業報告

<フォスタリング・チェンジ・プログラム（FCP）>

9/6～12/6 全12回講座：専門研修を受けたメンバー（だいじょうぶから2人、他3人）にて運営

<フォスタリングパートナー（FP）研修>

6/9、9/9、12/9、2/10の4回実施

<里親向け研修>

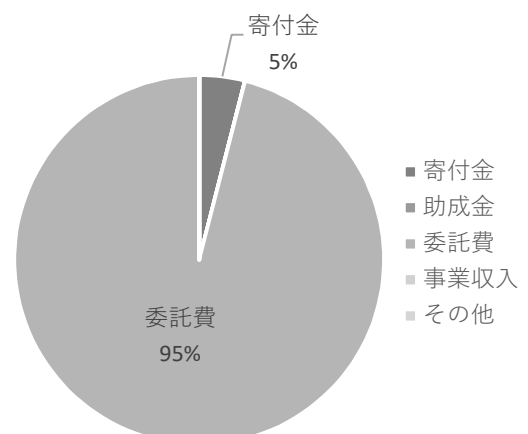
里親認定基礎研修（座学1日＋施設実習1日）×年3回 4～5月、7月、9～10月

里親認定登録前研修（座学2日＋施設実習2日）×年3回 5～6月、8～9月、11～12月

里親更新研修 5/17、10/20 全体研修 2/4 新規委託里親研修 3/11



収入内訳



実施日時	随時	従事者数	7人	事業費の金額	4,345,192
実施場所	とちぎ福祉プラザ、パーティ栃木男女共同参画センター、他				
受益者数	FCP8人、FP研修26人、里親向け研修231人				

「MY TREE 母親・プログラム」、「MY TREE 父親・プログラム」

事業内容

「子ども虐待とは、これまで人として尊重されなかった痛みや悲しみを怒りの形で子どもに爆発させている行動です（森田ゆり プログラム開発者）」

このプログラムは、「怒り」の裏側にある痛みや悲しみ、心の傷に目を向け、回復を促すプログラムです。自分自身を大切にできるようになることで、子どもへの「怒り」の爆発が減っていきます。

2012 年度から毎年実施、2022 年度で 11 回目となります。プログラムの運営は、研修を積んだ専門スタッフが担当しています。

2022 年度から、県内の MT 実施グループ「とちの木グループ」と協力して、これまでの母親プログラムに加えて、父親向けに再構成された「父親プログラム」も全国に先駆けて（大阪に次いで 2 か所目）実施しています。父親プログラムには関東全域から、子どもへの暴力に悩む父親の参加がありました。

事業報告

参加者は市町の相談室や児童相談所からの紹介が主になっています。

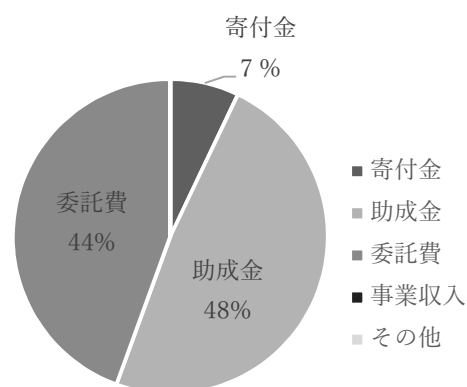
<母親プログラム>

- ・日時：9/9～12/9（全 13 回講座）+個別のインテイク面接、中間面接、終了時面接+3/17 同窓会
- ・参加者数：6 人
- ・参加者の声：
 - ・自分の子どもへの怒りの原因が何なのかがわかったことがとてもよかった（A さん）。
 - ・呼吸法や「死の危険」など、イライラした時の対処方法を知れて良かった（B さん）。

<父親プログラム>

- ・日時：8/27～12/3（全 13 回講座）+3/4 同窓会
+個別のインテイク面接、中間面接、終了時面接
- ・参加者数：5 人
- ・参加者の声：
 - ・前より穏やかになり、子どもたちと関わる時間が増えた（C さん）。
 - ・私の人生を変える大切な時間をいただけたこと、感謝してもしきれません（D さん）。

収入内訳



実施日時	母親：9/9～12/9 父親：8/27～12/3	従事者数	3 人	事業費の金額	2,015,370
実施場所	パーティとちぎ男女共同参画センター				
受益者数	子どもへの虐待に至ってしまった母親 6 人、父親 5 人				

子育てヘルパー「育児・家事 訪問支援事業」

事業内容

支援の必要なご家庭を訪問し、育児や家事のお手伝いをしたり、病院や学校、役所への送迎・同行をしたりします。母親の休息のために乳幼児の託児も行っています。

事業報告

託児部分が子どもの居場所の実績となったため、実績が大幅に減っています。同行支援については、保健師や相談員の動きがよくなり私たちの同行がいなくなり、激減しました。支援の中心は、送迎支援となっています。

<委託事業内訳>

・託児 43 件
・家事支援 5 件
・同行支援 31 件
・送迎支援 244 件
合計……328 件

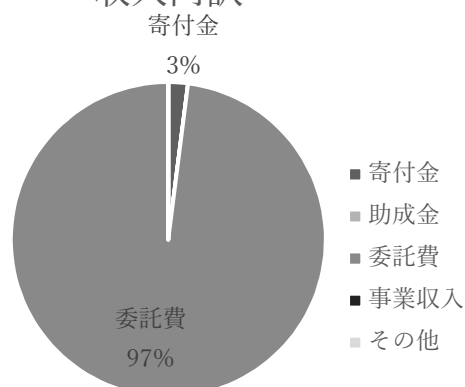
<自主事業内訳>

・託児・居場所 11 件
・同行支援 8 件
・送迎支援 6 件
・散髪支援 9 件
・食料支援 27 件
・片付け支援 2 件
・その他支援 9 件
合計……72 件

※イメージ写真



収入内訳



実施日時	ニーズに応じ随時	従事者数	11 人	事業費の金額	1,208,110
実施場所	Your Place ひだまり、高德ひだまり、ひだまりキッズ、ニーズに応じ市内各所				
受益者数	日光市民 延べ 400 人(件)				

支援が必要な乳幼児の認可外保育施設「ひだまりキッズ」

事業内容

育児疲れや、育児不安等で子どもの養育がままならないケース等、支援が必要な乳幼児を、保育園入園までの間一時的に預かり、保育しています。また、母親のレスパイトのために、所属があるお子さんについても、夕方保育園に迎えに行き子どもを預かり、お風呂に入れ夕食をとってあとは歯磨きをして寝るだけにして自宅に送る、夕方の保育も行っています。

スキンシップや声掛け、受け止めを大切に、母親のように、お祖母ちゃんのように保育しています。居場所を求めている母親も多いことから、母子での利用も可能な限り受け入れています。

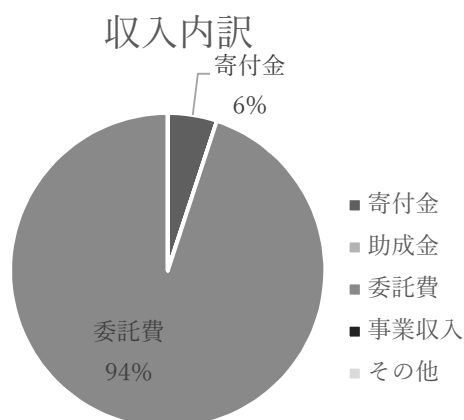
事業報告

今年度は、日中の一時的な預かりは減少しました。少ないながらも日中の乳児の預かりで「助かった〜!」とほっとするお母さんの笑顔に、孤立しがちな乳児の育児に寄り添うひだまりキッズの役割を再確認しました。また、昨年からの夕方預かりニーズが高い傾向は続いていて、毎日のように夕方の預かりが入りました。全体の実績は2021年度の553件から415件と減っています。

- ・開所日数:235日
- ・利用者数:乳幼児15人 延べ415人 1.8人/日利用
- ・職員10人、ボランティア2人が延べ547人従事 2.3人/日従事

ひだまりキッズ月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
キッズ開所	20	19	22	21	17	19	20	21	19	16	19	22	235
キッズ利用	54	37	41	44	36	21	44	43	30	13	25	27	415



実施日時	平日週5日	従事者数	10人+ボラ2人	事業費の金額	6,114,532
実施場所	ひだまりキッズ				
受益者数	日光市在住の乳幼児15人 延べ415人(件)				

～地域にあるもう一つの家～ 子どもの居場所「ひだまり」 Your Placeひだまり / 高德ひだまり / 子どもの居場所キリフリ

事業内容

家庭支援に入れない子どもを、家に入れないなら連れ出そう!と発想し、つくりました。

家で安心して過ごせない子を、放課後学校や家にお迎えに行き居場所に連れてきます。居場所では、皆で遊び、食卓を囲み、必要に応じて入浴や洗濯もして、あとは寝るだけにして家に送ります。子どもにとって、「もう一つの家」、「おばあちゃんち」のように、優しく受け止めてもらえる、安心して過ごせる居場所であることを、何より優先しています。ひだまりでは、日常の生活支援だけではなく、長期休みや休日のイベント開催、外遊びへの連れ出し等、不足しがちな体験を補う事業も行っています。

栃木県が、ひだまりをモデルに、子どもの居場所づくりを市町に呼びかけ、宇都宮市や小山市等に 8 か所の子どもの居場所が立ち上がっています。

事業報告

キリフリ自然学校の協力で、自然学校内に開設していた自然体験型の居場所ですが、自然学校の移転のため、地元有志のご厚意で別荘を借り受け、子どもの居場所キリフリとして、リニューアルしました。これまで通り、屋内遊びでは満足できない子どもたちを中心に外遊び、自然体験の拠点として運営してきました。

人とのふれあいを重視し、感染対策をしながら、複数世帯一緒の預かりとしました。しかし、第 7 波、第 8 波の感染拡大期には、職員や利用する子どもが感染し、また利用する子のクラスが学級閉鎖となることもありました。そのため、8 月と 1 月の実績がかなり落ち込んでいます。

感染予防のため、大勢を集める夏休みのイベントやクリスマス会は実施できませんでした。曜日の利用者ごとに、少人数で川遊びやクリスマス会を実施しました。

Your Place ひだまり 月別の利用者数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
開所日数	24	22	26	23	22	24	25	24	20	17	20	26	273
延利用者数	64	62	77	59	54	64	65	51	47	34	58	67	702

高德ひだまり

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
開所日数	21	19	20	18	11	19	20	15	16	13	17	18	207
延利用者数	30	27	26	36	23	42	42	27	34	19	20	22	348

子どもの居場所キリフリ（1 月～あそびのにわ実績を含む）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
開所日数	8	7	8	5	10	4	4	7	5	11	13	21	103
延利用者数	27	26	27	26	25	15	14	25	18	30	25	33	291
3 か所計	121	115	130	121	102	121	121	103	99	83	103	122	1,341

子どもたちの様子



<Your Place ひだまり>

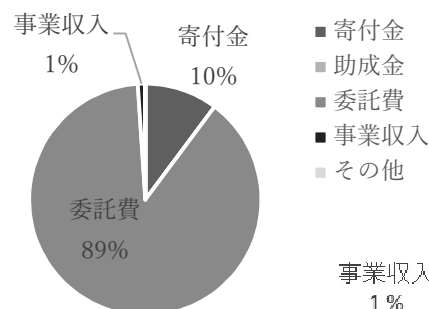
- ・273 日開所 延べ 702 人利用 2.6 人/日利用
- ・職員 17 人が延べ 765 人従事 2.8 人/日従事
- ・ボランティア 7 人が延べ 18 人従事

<高德ひだまり>

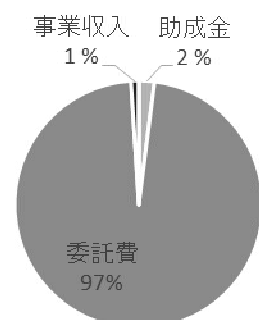
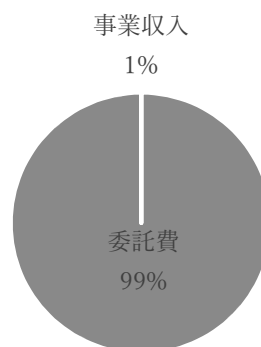
- ・207 日開所 延べ 348 人利用 1.7 人/日利用
- ・職員 14 人が延べ 480 人従事 2.3 人/日従事
- ・ボランティア 4 人が延べ 6 人従事

<キリフリ自然学校>

- ・103 日開所 延べ 291 人利用 2.8 人/日利用
- ・職員 14 人が延べ 267 人従事 2.6 人/日従事
- ・ボランティア 6 人が延べ 11 人従事



収入内訳



実施日時	平日+随時土日祝	従事者数	職員 21 人/ボランティア 16 人
事業費の金額	Your Place: 6,378,113 高德: 5,796,117 キリフリ: 3,070,791		
実施場所	Your Place ひだまり、高德ひだまり、キリフリ自然学校、市内各所		
受益者数	日光市内在住の支援が必要な子ども 延べ 1,341 人(件)		

⑤子どもが健全に育つ環境づくりを支援する事業 子どもが健全に成長できるセーフティネットをつくる

子ども第三の居場所「あそびのにわ」 (日本財団助成事業)



事業内容

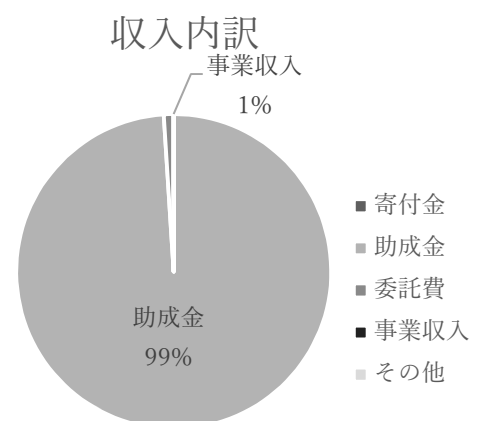
子ども第三の居場所は、子どもたちが安心して過ごせる環境で、自己肯定感、社会性、生活習慣、学習習慣など、自立に向けて生き抜く力を育むための居場所です。居場所を核として地域と協力し、誰一人取り残されない子育てコミュニティをつくり、「みんなが、みんなの子どもを育てる」社会づくりが目的です。

2022年度事業に採択され、1月からの開所を目指して、交流スペースの新築、送迎用車両の購入、職員の募集をするなどして準備、2023年1月13日に開所することができました。

事業報告

交流スペースの設計に時間がかかり、着工が遅れたため、建物の完成は開所式ギリギリとなりました。車両は12月中に納車となりました。開所に向け、校長会でのPRや地元小学校へのチラシの配布を行い利用者の募集を行いました。

1月13日の開所以降、徐々に登録者が増え、3月末時点で23人の子どもが登録しました。3月には1日あたり5.4人が利用するまでになりました。売りである自然体験の印象が強かったためでしょう、困難児童と一般児童の割合が5:5と、一般児童の割合が高めになっています。困難児童のいる世帯へのPRを工夫する必要があるそうです。



実施日時	1月～、月～金曜日	従事者数	職員12人 ボラ4人	事業費の金額	3,400,887
実施場所	子どもの居場所キリフリ内交流スペース、霧降高原のフィールド				
受益者数	日光市内在住の子ども23人 延べ218人				

生活困窮者自立支援法に基づく子どもの学習支援事業（日光市委託） 高校生の中退防止事業「のんびりカフェ」・社会的な居場所づくり事業

事業内容

<高校生の中退防止事業「のんびりカフェ」>

日光市在住及び日光市の高校に通う高校生&高校生世代の若者を対象としています。

高校中退を防止し、高校卒業&就労等、社会的自立を目指す事業です。土曜日開催の居場所「のんびりカフェ」と、カフェ等で培った人間関係をもとに相談対応や食材提供等を行う訪問支援を行っています。カフェでは、のんびりと音楽を聴いたり、ボードゲームをしたり、卓球をしたりと、好きなことをして過ごします。希望に応じ、相談に乗っています。

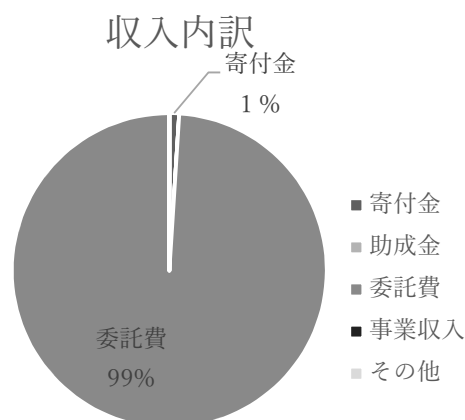
<社会的な居場所づくり事業> ※子どもの居場所事業の実績に含まれています。

事業報告

消毒や体調管理、マスクの着用を徹底しながら、実際に顔を合わせて開催できました。

新規利用者の発掘が課題で、子どもの居場所ひだまりを卒業した中高生が利用の中心になっています。第 2、4 土曜日は中学生も参加 OK の日として、中学生の利用も歓迎しています。精神的に不安定な子の利用が増え、カフェの雰囲気は少々独特になってきました。中々その子が安心できるような関りが持てず、雰囲気の改善につながっていません。

通信制高校生など日中の居場所が無い子が、平日日中にひだまりの近所をうろついたりすることもありました。見かねた方が、NPO 法人ウエーブさんが運営する高齢者等の居場所「ほっとウエーブ」で高校生をボランティアとして、また居場所利用者として受け入れてくださり、食事の提供等してくださいました。



実施日時	第1~4 土曜、他	従事者数	職員5人 ボラ1人	事業費の金額	3,273,238
実施場所	Your Place ひだまり、利用者宅等				
受益者数	日光市内在住の高校生等 20人 カフェ:延べ218人 訪問支援等:延べ66人(件)				

生活困窮者自立支援法に基づく子どもの学習支援事業（日光市委託） 学力向上を図る学習支援事業

事業内容

生活困窮家庭の中学校 2・3 年生を対象とした、無料の学習支援事業です。

以前、ひだまりの子の受験勉強にボランティアに関わってくださっていた S&S セミナーに運営をお願いしています。遠方等で通えない子には、Zoom を活用し、リモートで勉強を教えています。

事業報告

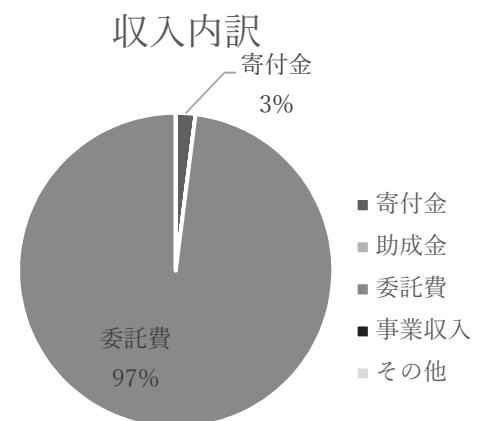
<中学 2 年生>

対象者：24 人が登録、利用 週 1 回開催で延べ 609 人が利用

<中学 3 年生>

対象者：27 人が登録、利用 週 3 回開催で延べ 1358 人が利用

実施日時	中 2：金曜日 中 3：水・土曜日、木・土曜日
従事者	S&S セミナー
事業費の金額	12,218,012
実施場所	非公開（日光市内）
受益者数	日光市内在住 要保護・準要保護世帯の中学生等 2 年生 24 人・3 年生 27 人



母子の自立に向けた「ステップハウス」

事業内容

離婚や生活困窮、退職で寮を出されたりして行き場を失った母子に、3 か月を目安に無料で住まいを提供しています。利用中に、AP の敷礼金等自立に向け必要な資金を貯めていただきます。

事業報告

・パートナーと別居し行き場のない母子 3 人が 6 か月間利用

実施日時	4 月～9 月	従事者数	3 人	事業費の金額	143,746
実施場所	高德ひだまり 2F				
受益者数	3 人				

その他の動き

事業内容	実施内容
① 総会、理事会の開催	・総会 5月28日 第17回通常総会 ・理事会 5月25日 第1回理事会(総会議案) 11月9日 第2回理事会(上半期の報告、下半期の計画、他)
② 通信の発行	・6月15日 「だいじょうぶ通信38号」子どもカフェ活動報告、他 ・9月30日 「だいじょうぶ通信39号」高德ひだまり リフォーム報告、他 ・2月10日 「だいじょうぶ通信40号」子ども第三の居場所「あそびのにわ」、他
③ 講演会、研修への参加	・6月14日 フォスタリングチェンジプログラムフォローアップ研修 ・7月14日 子どもの居場所担い手養成研修 ・9月22日 子どもの居場所担い手養成研修 ・10月13日 子どもの居場所担い手養成研修 ・11月6~7日 専門里親更新研修 ・11月26日 子ども虐待をなくそう!県民の集い 「虐待死をなくすために私たちにできること」 ・12月10~12日 子ども虐待防止学会学術研究集会 福岡 ・1月6日 職員全体研修「2022年の振り返り、2023年の」 「~自分の仕事って~自分の名刺を作ろう」 ・2月17日 児童虐待防止セミナー「社会的養護と里親の役割って?」 ・2月28日 里親地区別研修
④ 他団体との交流	・6月2日 国際ソロプチミスト宇都宮50周年記念式典参加 ・10月8日 チャリティーウォーク(フードバンクうつのみや)休憩所運営
⑤ 講座等実施	※とちぎフォスタリングセンターの研修(詳細は7ページ)
⑥ 講師派遣	・4月6日 今市ロータリークラブ例会にて講話「だいじょうぶの活動」 ・5月19日 宇都宮大学講義「官民協働のまちづくり」 ・7月1日 武蔵大学講義「児童虐待を無くすために~行政と協働のとりくみ」 ・9月15日 子育て応援セミナー ・10月6日 上都賀地区ふれあい学習推進会議にて講話 ・11月14日 習志野市講演会「地域で取り組む児童虐待防止」 ・12月12日 上都賀地区ふれあい学習推進会議にて講話 ・2月8日 宇都宮市民生委員講演会「地域みんなで子育て支援」
⑦ 見学受入	・5月9日 日光市健康福祉部職員7名 ・6月6日 宇都宮大学学生 ・10月24日 NPO法人桜花職員 ・11月2日 上都賀教育事務所スマイル相談室2名 ・11月4日 国際医療福祉大学講師2名 ・2月13日 子ども・若者の居場所「いとこんち」(北海道)4名 ・2月15日 ネバーランド(鹿沼)職員、鹿沼市職員11名 ・3月3日 NPO法人プラットフォーム(神奈川)2名……他、全16件
⑧ 資金集め	・12月18日 子どもの貧困撃退♡チャリティー サンタ de ラン&クリーン参画

事業内容	実施内容
⑨ メディア	・ 7月26日 ミヤラジみんながけっぷちラジオ収録・生放送 ・ 9月19日、26日 ニッポン放送「阿部亮のNGO 世界一周」放送 ・ 11月11日 いのちのことば社 CGNTV「クリナビ」放映 ・ 12月11日 ニコニコ本陣 Youtube 番組
⑩ 取材	・ 4月7日 下野新聞社「MY TREE 父親プログラム」 ・ 4月16日 下野新聞社「日光明峰高校 食材配布会宛てフードドライブ」 ・ 11月2日 カゼトツチ地域ポータルサイト「とちぎのしゅし」 ・ 11月18日 下野新聞社暮らし文化部「はぐくもっと」(11/26 掲載) ・ 12月7日 厚生労働省・みずほリサーチ「特色ある認可外保育施設」 ・ 12月15日、27日 読売新聞「MY TREE 父親プログラム」
⑪ 各種委員会等への参加	・ 栃木県子どもの権利委員 ・ 栃木県今市特別支援学校評議員 ・ 日光市福祉のまちづくり推進委員会今市地区委員 ・ 日光東中学校学校評議員
⑫ 物資の寄贈 (受け入れ)	○ 育児支援家庭、子どもの居場所ひだまり、食材配布会宛てに、食品や日用品などの生活物資を寄贈いただいた。件数は311件(120か所より)にのぼる。 <物資提供をいただいた皆様(敬称略)> ・ 個人有志の皆様 ・ 団体: 社会貢献支援財団 いちご香房中山 - フードバンクうつのみや フードバンク日光 - だいやの森旬菜館 JA かみつが - 大澤屋製菓 コメールアミーゴス - 太子食品工業 無量山専念寺 - めだかの学校 はばたき - 日光明峰高校 仙波糖化工業 - カーブスショッピングプラザ日光 7&iグループ ヨークベニマル - 東京リアルリンクアネックス かきぬまファーム、他
⑬ 物資の支援 (提供)	○ 生活困窮家庭への物資支援実績(延べ712件支援した。) ひだまりを利用しているなどだじょうぶで関わる家庭だけではなく、新型コロナウイルスや物価高の影響で困窮する家庭への支援が増えてきている。特に、子育て中のご家庭向けに広く食材の配布会を実施した。 <配布会>61家庭 407件(お米 1,810 kg) ・ 食材セット配布会 毎月第4土曜日に実施(11月は休み) <提供品内わけ(配布会以外)>80家庭 305件 ・ 乾麺や調味料、缶詰、レトルトなどの食品 165件 ・ お米 250 kg ・ 衣類 29件 ・ 育児用品 16件 ・ 入学&進学準備品(学用品・制服&ジャージ) 32件 ・ その他 63件

※その他の事業「バザー」実施せず。